

Ⅱ 類航海学習

4月14日より1次航海、5月10日から2次航海を実施しました。それぞれ21名の生徒が乗船し、東京で積み込みをした後、那覇に寄港する15日間の航海学習でした。生徒の感想を掲載します。

航海実習を終えて 3年 西山 武志

今回、この二週間の航海実習を終えて、様々なことを経験し、学ぶことが出来ました。特に印象が強いことは、一年生の時に体験することのなかった、二十四時間通して行った航海ワッチです。船酔いや皆の命を背負っているというプレッシャーの中での作業は、辛いことや注意されることが数多くありました。しかし、そのことにより一人一人が仕事に対して責任感を持つ重要さやその責任を果たすことの大切さを学びました。また、航海ワッチの中での船位出しや気象観測などでは、始めは作業も遅くてミスもありましたが、次第に早く作業をこなせるようになり、小さな成長に喜びを感じたとともに達成感も得ることができました。更に、今回の航海は二十四時間での航海のため、私が休んでいる間も仕事をしている人は必ずいます。そのため、安心して休めることの有難さも分かりました。他にも出入港作業などを体験し、船員は専門の知識だけでなく、あらゆるトラブルや物事に対する正しい判断力や適応力が必要になるのだと感じました。そして、多くの人の手があって船が動いており、私たちが実習できているのだと改めて理解できました。

今回で大島丸での乗船実習は最後になるかもしれませんが、将来の目標でもある船員という職業に就くためにも、この実習で得たことをこの先の人生に活かしていきたいです。

最後になりますが、今回の乗船実習を実現させて下さった船長を始めとする船員の皆様や先生方、保護者の方々、本当にありがとうございました。



沖縄での見学を終えて 3年 中野 亮

沖縄での三日間で様々な体験・見学をした。那覇新港に入港し南部の史跡（ひめゆりの塔資料館・旧海軍司令壕）、首里城を巡った。南部の史跡は想像していた内容より真実は悲惨でとても悲しいものであるということが分かった。また皇民化教育を受け、戦争へ動員されていった同年代が数多く死んでしまったことを知り、とても胸が痛くなった。本に書かれ

てあった体験談はとても本当に起きたこととは思えないものであり、戦争の無残さ・恐ろしさを改めて強く感じた。首里城では、沖縄の文化のすばらしさ、昔の人の技術の高さを目に見て感じた。釘を使わずに造られている守礼門や、赤・白を基調とした色彩、獅子や金龍などの彫刻など現代に劣らない技術は、ハイテク化の進む今に伝統や歴史を残していくうえでとても重要な物になると思った。

二日目には、慶良間諸島の座間味へ向かいダイビングを行った。海中ではカラフルで多種多様な生物、海底を彩るサンゴがあり、スクーバダイビングでは空中を歩いているかのような感覚になった。だが、スキンドイビングではまだ思うように潜れず悔しい思いをしたので、練習を積んで耳抜き・潜降などの技術を向上させ、より良いもの出来るようにしていきたいと思った。

三日目は、美ら海水族館へ行き海洋生物への興味、理解が深まった。沢山のコーナー（深海・黒潮・サンゴ礁をモチーフにした）があり、南国ならではのカラフルな生物や珍しい生物などを見ることが出来た。また、ジンベイザメやメガマウスなどについては、他の生物より新たな発見や知識を得ることが出来た。また、イルカショーを見て、イルカの頭脳の良さや飼育員のすごさを感じた。

三日間を通して、沖縄は初めて来たので何も知らなかったが、少しは沖縄の事を知ることが出来たのではないかと思った。そして、いい思い出が沢山出来たのでまた来たいと思い、より沖縄の事について知りたいと思った。



3年 I 類航海学習

本来2年生で実施する航海学習でしたが、諸般の事情によりこの時期になったため、国際系3年生希望者17名での実施になりました。

6月5日乗船し、6日朝6時に波浮港を出港しました。東京で積み込みをして小笠原二見港に向かいます。14日下船式の予定です。



1年生 地域理解学習



4月23日(土)総合と日本文化の授業の一環で、波浮港地区を班毎に回りました。各所で写真を撮り、学校に送信するとともに、各所で出される問題を解くというミッションをこなしつつ、地域の歴史と文化に接しました。波浮港は216年前に港ができ、その時から人が住み始めました。大島の中では比較的新しい地区になります。一部ですが写真の場所について解説します。

[左上] 見晴らし台にある秋廣平六翁像です。「入口を掘削すれば良港になる」と江戸幕府に願い出て工事の一式引受人となりました。像の目線では郷里の房総半島が見え、右手は工事をした港の入り口を指しています。

[左下] 竜王埼灯台です。周辺は鉄砲場として江戸時代末に外国船を打ち払うための施設のあった場所です。また、戦争の時には兵舎がありました。灯台は12秒に1回光ります。

[右上] 貝の資料館「パレラメール」です。大島町立の勤労福祉会館内にあり、一見の価値があります。

[右中] 「波浮の港」の歌碑です。野口雨情作詞、中山晋平作曲という名曲です。碑の文字は森繁久弥さんが書いたものです。隣にはメロディーの流れる鉄琴もあります。

[右下] 「旧甚の丸邸」内部の当主の居間です。秋廣平六氏の親戚の家です。

安全指導の日

5月14日安全指導の日として21年前の水難事故を追悼する式典を行いました。

平塚先生の講話は、4名の生徒の名前が呼ばれ、ご冥福をお祈りしますという言葉で始まり式典の重さを考えさせられました。事故の概況・海の怖さ・海で身を守る方法等を通して海は十分に注意しながら利用することが大切だということ学びました。校内での事故も紹介され注意する点を学びました。

校長先生の講話では、当日の波の様子が見た方の言葉として語られ、遺体が発見された時の保護者の悲しみの様子も生々しく語られました。事故を2度と起こしてはならないという事と共に、人の体や心そして財産を傷つけるような行動は本校では絶対に許さないという話で締めくくられました。

講話の後、正門横の慰霊碑前に移動してからの集会はさらに厳粛な雰囲気の中で行われました。生徒会長により碑文の朗読が行われ、事故の教訓を忘れず学校生活に生かしていく決意を新たにしました。最後に事故で犠牲となった4名の生徒に哀悼の意を込めて黙祷を捧げ、式典を終了しました。[生活指導部主任 柴田先生]



セーリング部遠征報告

5月8・7日に若洲ヨット訓練所で東京都高等学校セーリング選手権大会が行われました。早稲田大学高等学院・都立日本橋高等学校・本校の3校で対戦し、FJ級・420級において男女共に1位となりました。6月11～13日には土浦市で関東高等学校ヨット大会、6月18・19日には同会場で国民体育大会セーリング協議会東京都予選会がおこなわれます。御声援をよろしくお願いします。



教育実習生紹介

6月6日より3週間の予定で、理科と体育科の教育実習が行われます。二人とも本校卒業生です。本人からのコメントをもらいました。



・日本大学から来ました5期卒業生の小菅佳菜です。久しぶりの海国で、高校生のフレッシュな空気を感じながら精一杯実習していきたいと思います。

・桐蔭横浜大学の緑川恵介です。5年前に卒業した4期生です。学校ですれ違う生徒達は気持ちの良い挨拶をしてくれ、帰ってきたのだと実感しています。日々努力していきます。